

## 2016 年度地域貢献活動交流会並びに地域懇談会のまとめ

### 1. 事業目的

下記の目的を掲げ、地域貢献活動交流会並びに地域懇談会を開催した。

ア) 教職員、学生による地域貢献活動の経験交流（実践知の共有）

イ) 本学の地域貢献活動の姿を広く地域に周知し、理解を広げる

- ① 高校教職員と高校生
- ② 自治体関係者及び地域諸団体
- ③ 地域住民

ウ) 地域連携室として、地域貢献活動の課題を把握し、今後の支援事業に役立てる

- ① 地域貢献活動の実施者から
- ② 学外構成員から

### 2. 実施状況

#### 1) 日時と会場

2017 年 3 月 16 日（木曜日）

13 : 00 から 15 : 00 地域貢献活動交流会 （6201, 6206 教室）

15 : 30 から 17 : 00 地域懇談会 （大学会議室）

#### 2) 参加者

- ① 地域貢献活動交流会での活動報告：14 及び『高齢者支援学 I・II』の活動計画
- ② 参加者総数：87 名
  - 教職員：51 名
  - 学 生：12 名
  - 地域懇談会学外構成員：9 名（2 名は地域懇談会のみのご参加）
  - 地域諸団体関係者：10 名
  - 高校生：5 名

#### 3) 実施

以下、スタッフからのご意見を整理した。

ア) 企画運営全般

① 『地域貢献活動報告書』

14 の地域貢献活動すべてからの提出を得た。

200 部を手作業で作成した。

② 地域懇談会学外構成員の選出

今村副室長、伊東事務部長の渉外活動によって 11 名の方々を学外構成員としてお迎えできた。

依頼の過程で本学に対する期待やご意見を伺うことができた。

地域

田島裕美（小倉北区長）、西原達次（九州歯科大学理事長・学長）、花田博之（井堀小学校校長）

植村茂信（井堀市民センター館長）、原田昌樹（NPO 法人ライフアゲイン代表）

村瀬泉（西南女学院中学校・高等学校校長）

企業・団体

籠田淳子（有限会社ゼムケンサービス代表取締役）、樋口智巳（小倉昭和館館主）

奥田郁夫（三井住友銀行北九州支店法人営業部長）、岩田定幸（北九州医師会専務理事）

小鉢由美（福岡県弁護士会北九州部会）

③ 地域貢献活動交流会

14 の地域貢献活動と『高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ』の発表を 3 つの分科会に分けて実施した。

各発表は質疑を含めて 10 分（発表 8 分、質疑 2 分）とした。

④ 地域懇談会

2 部構成で実施した。（第 1 部：出席者紹介と地域貢献活動概要説明、意見交換。第 2 部：茶話会、意見交換の続き）

9 名の学外構成員の参加を得て意見交換が行われた。

イ) 広報

- ・ 領木先生の協力を得てチラシを作成することができた。
- ・ 学外構成員への就任と交流会への参加のお願いに役立てた。（9 名の参加）
- ・ 本学の地域貢献活動に係わる地域諸団体にチラシをつけて案内を送付した。（10 名の参加）
- ・ 本学に生徒を送ってくださっている高校のうち近隣の 72 校に送付した。（高校生 5 名の参加）
- ・ プレスリリースに添付した。（記者 1 名の参加）

4) 運営上の課題の整理

- ・ 日程については最適な時期について再度検討を行う

- ・ 申請書，報告書とその記述内容の精査を行いつつ，その必要性について周知を図る。

### 3. 評価

#### 1) アウトカム評価

##### ア) 教職員，学生による地域貢献活動の経験交流（実践知の共有）

ひとつひとつの発表において，活動を進めるために大切にしている実践上の視点が示されていた。（例：「学生たちが自分たちで考える（だいすきにつぼん）」，「現地の高校生等の意見を聞いて購入書籍を決定する（カンボジア教育支援）」，「教職員と学生が同じ立場で協働する」（いくつかの発表で基本となっている）など）

このような発表を聞き合うことができた点で，目標に向かっての一步を踏み出したといえる。しかし，3月中旬ということもあって学生による発表と参加を積極的には勧めなかった。目標の実現という観点から課題が残された。

→**カイゼン方策：開催時期，発表者の設定などを再検討する。**

##### イ) 本学の地域貢献活動の姿を広く地域に周知し，理解を拡げる

高校教職と高校生，自治体関係者及び地域諸団体，地域住民，記者の参加が得られたことで，地域に周知する一步を踏み出すことはできたと思われる。参加者アンケートを実施していないため反応は不明であるが，地域懇談会に参加された学外構成員は，それぞれの地域貢献活動を高く評価し，また期待を寄せる意見を述べていた。学外構成員には業界団体の方もおられるので，おそらく就職活動にもプラスになると思われる。これらは，今後，精査していきたい。

正門前の掲示板など活用すべきであるという意見があるなど，カイゼンを要するものと思われる。

→**カイゼン方策：学外向け掲示板の活用**

##### ウ) 地域連携室として，地域貢献活動の課題を把握し，今後の支援事業に役立てる。

###### ① 地域貢献活動の実施者から

「地域貢献活動報告書」には下記の様な課題が記述されていた。

- ・ 「開催日が補講日と重なるため，ボランティア動員に苦勞する」
- ・ 「(研究室で作業しているが実習指導などで不在のときもあり) 学生の活動場所の確保」

そのほか，上述の通り，室員をとおして意見を集約することができた。

###### ② 学外構成員から

下記の様な質問があった

- ・ Q 活動の原資は何か  
A 外部資金（補助金）を取得するか，学内の研究費を申請する形が多い

- ・ Q 地域の範囲が分かりにくい

A 北九州市を基本に考えているが、地域を限定すると自発的な活動を制限することになる。

他の地域での活動も、そのことが北九州地域の特性を理解する契機となればと考えている。

また、下記のような意見や提案が提示された。

- ・ すでにこれだけの地域貢献ができているのだと分かった。
- ・ 地域貢献活動に示された学生の豊かな発想力は、荒削りであることを補っている。
- ・ ふれあい昼食交流会などで学生に参加してもらっている。盛り上がるし、地域の方々の評判は良い。
- ・ 銀行も地域貢献に力を入れている。子ども食堂等での活躍の場をつくって欲しい。
- ・ 子どもたちは職業を具体的に考えることが難しい。大学の勉強はどういうものかを知ること、考える材料となる。
- ・ カイゼンの考え方を大切にしたい。

働き方改革と学生の学び方改革は同時進行だ。得た知識を地域で実践してみるナレッジマネジメントを行うとともに、実施したことをビジネスに活かすところまで実施すべきだ。朝食を摂っていない学生がいることが分かったら、朝食を摂るよう促せるアイデアを商品としてほしい。地域貢献活動にはたくさんのビジネスの種を見つけることができた。

- ・ 女性活躍、ライフワークバランスのカイゼンはまだまだやることがたくさんある。
- ・ 地域貢献活動交流会にもっと学生が参加するように促すべきだ。
- ・ 地域の人たちにもっと知っていただくべきだ。

私の職場ではストーリー性のある商品などを紹介するなど地域貢献活動もしている。活用して欲しい。

- ・ 新しい発想をえることができた。ここは産学官金の集まりであり、活かしていきたい。

室長のまとめ

- ・ 資格取得等で忙しいこともあり、学生の参加にあたっては選択と集中が必要になることをご理解いただきたい。
- ・ カイゼン文化が大学にも根付くようにご意見を活かしていきたい。
- ・ 人と人のつながりで学生達を支えるということを大切にしていきたい。学生達を支えてください。

## 2) プロセス評価

### ア) 地域貢献活動交流会の構成

質疑の時間が限られてしまった点が課題と思われる。

講評によって地域貢献活動がどのように評価されているかを発表者は知ることができたことは良かったと思われる。

→カイゼン方策：発表と質疑の時間全体を伸ばすだけだと発表そのものが伸びてしまう可能性がある。そこで、時間全体を12分にして、発表は8分のまま、質疑を4分にする、発表は9分程度で終了し、その後質疑も行えるという意見がある。

→地域連携室運営協議会意見：学生中心にするとよい（タイムキープの練習にもなる）。

一発表の時間は状況に応じて検討する。

#### イ) 関係者とのコミュニケーションに関する事項

下記の点の共通理解の醸成がうまくできず発表者には余計な心労をかけてしまった。

- ① 地域貢献活動交流会と地域懇談会の開催目的と参加呼びかけ対象
- ② 開催時期の設定根拠
- ③ 各種の書式の必要性

→カイゼン方策：行事開催に関して、また各種書式について、その目的を周知しつつ、カイゼン方策を継続的に検討するには、コミュニケーションの機会を増やす必要がある。開催時期に関しては、より適切な時期を検討すること、できるだけ早めに時期を伝えることなどを実施する。

(下記資料参照)

資料 書式等に関する説明の例

- ① 申請書：
  - i 組織として承認されていることで保険手続きに問題を生じさせないこと
  - ii 地域連携室ができるまでは個別に承認を取っていたが、その際、関係部署との調整を主催者が個別に取らなければならなかった。申請書には、開催にあたって部局として行ってきたチェック事項を網羅した。これにより、その都度の問合せの手間、担当による説明の食違いを解消する
- ② 報告書：

一定の書式があることで最低限の記述事項が整理され書きやすくなる。また、学外者に分かりやすくなる。もちろん、現在の書式が最低限かなど、カイゼンは欠かせない。

むしろ、より書きやすく、時間のかからない書式の提案を待ちたい。
- ③ 成果の示し方について  
大学教育に対する近年の社会的要請として、教育活動の成果を根拠として示すようにということがある。そのため第三者評価等で肯定的な受けとめを得やすい書式にしたい。  
ただし地域貢献活動では、成果は事実を述べるということであって、アンケート等での数量化でなくとも、参加者や学生の表情、発言、行動等の記述でもよいと地域連携室運営協議会で議論した。意見としてあがっている「成果はデータでなく、雰囲気、楽しそうなどでよいのでは？」については、雰囲気、「楽しそう」等の記述も観察事実でありデータであるので、いわゆる科学的方法論に拘らずに考えていただきたい。
- ④ アウトカム評価とプロセス評価について：

教育活動においては、その目標の達成度をアウトカム評価として示すとともに、プロセスの適切性についても問われる必要がある。たとえば、テストの成績として期待されるレベルに達しても、そこに至るプロセスで、学生が自発的に取り組んだのか、受動的であったのか、自発的になれるようにどのような場面設定を行ったのかなど、学生の活動の質、教師の働きかけの質、学生と教師の相互作用の変化の過程などが大切になる。以上の点が盛り込まれていれば、アウトカム評価とプロセス評価を分けず総合的に示すことも問題ない。

ウ) 地域懇談会の構成

2部構成にして改まった会合の部分と、席を立っての交流を行うことで、地域貢献活動だけでなく、日常の課題についての交流も行われた。異業種交流の様相を呈していた。これらはメリットとして学外構成員の方々に映ったのではないかと推察される。

エ) 見えてきた組織整備の課題への対応

つぎのような組織整備が欠かせないことが明らかとなった。

① 地域連携室運営協議会と室員会合とが協働していると思える状況をつくる

→運営協議会と室員との情報共有のあり方を考える。(議事録共有、意見交換の場設定など)

→教職員、学生の問合せ先を一本化する。(各室員に問合せがあり過重負担がかかる)

② 地域連携室の運営に対する学生の主体的関与を増大させる

→まずは地域連携室と学生代表との懇談の機会を検討する。

③ 地域連携室の事務担当専任者を配置する

→アルバイトの採用を依頼中である。

→地域連携室運営協議会意見：事務担当室員の負担を減らして欲しい。

事務担当室員のアイデアは貴重、アルバイトの  
マネジメントを中心にお願したい。

オ) 見えてきた環境整備の諸課題への対応

次のような環境整備が欠かせないことが明らかとなった。

① 地域貢献活動支援機能の整備

→つぎの機能をもつ部屋が必要であるが、可能などころから整備する。

✓ 地域貢献活動を行う学生達が会議をしたり、作業を行えるスペースがある。

✓ 地域貢献活動に関する情報(地域の要望、補助金など)が閲覧できる掲示板がある。

✓ 作業を行うための機材がある。(PC、カラープリンター、大型プリンター、プレゼンテーション用機材など)

✓ 学生が相談できるスタッフがいる。

② ニーズとシーズを結びつけるために

✓ 学生に提示する時期が重要となる。

例) 長期休みは、入ってしまうとアルバイト等の予定が決まってしまうため、やりたくても難し

い。

- ✓ 長期の休みに入る直前に情報提供することが望ましい。

#### 4. 謝辞

地域貢献活動主催者の皆様，学生の皆様，地域懇談会学外構成員の皆様，高等学校の教職員と生徒の皆様，地域諸団体の皆様の，ご理解と力強いご協力がなければ，地域貢献活動交流会と地域懇談会はなしませんでした。ここに記し地域連携室からの心よりのお礼とさせていただきます。

また，皆様から，たくさんの貴重なご意見を頂きました。本学の教育の発展を願ってのものでございますので，真摯に受けとめ，カイゼンに取り組んで参りたく存じます。

以上